

園 評 価 の 結 果 に つ い て

学校法人 北邦学園

東橋いちい認定こども園

令和4年度に実施した東橋いちい認定こども園の自己評価の結果の概要は、次のとおりです。

建学の精神 「自然から学ぶ」

1 本園の教育保育目標

◎思いやりのある子 ◎考え工夫する子 ◎明るくたくましい子

【各年齢・年間のねらい】

- 0歳児 保育教諭や友達と一緒に安心して過ごす中で、いろいろな遊びに興味をもち園生活を楽しむ
- 1歳児 保育教諭や友達と関わりながらいろいろな遊びをする中で、安心して自分の思いを表現する
- 2歳児 いろいろな活動や物事に興味をもち、保育教諭や友達との関わりを楽しむ
- 3歳児 様々な遊びに興味をもって取り組んだり、自分の気持ちを表現しながら友達と関わったりすることを楽しむ
- 4歳児 いろいろな遊びや活動に興味をもち意欲的に取り組み、自分の気持ちを伝えながらクラスの友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じる
- 5歳児 様々な活動に意欲的に取り組む中で、自分なりに考えながら目標や見通しをもって行動したり、いろいろな友達と気持ちや考えを伝え合ったりしながら、協力して進めることを楽しむ

自己評価	評 価 内 容
「A」	・一年を通し、保育教諭が年間のねらいを意識しながら保育にあたることができた。 ・子どもたちは日々の積み重ねにより、ねらいを達成していくことができ、年度末には成長が感じられた。

(A：成果が上かった。B：ある程度成果が上がった。C：もう少し努力が必要。D：改善が必要。)

2 重点的に取り組む目標・計画

目 標	計 画(具体的な取組方法)
1 「遊び」の充実のための保育環境整備や構成の創意工夫 ・2年連続してコロナ禍での保育を行ってきた	◎建学の精神「自然から学ぶ」に基づく保育として、子どものありのままの自然な姿が引き出されるために必要な「遊び」をより充実させていきたい。 ☆昨年度の学びを継続し活かす(保育室) *昨年度の「園内研究」として各保育室の環境構成を様々な視点から考え実践し

ことにより、建学の精神に基づいた子どもの主体性を育む「遊び」への取組が、制限されたり消極的になってしまったりしたことがあった。

あらためて、各年齢の成長段階に必要な「遊び」、遊びを創り出す「環境」について考えたい。

改善してきた。その中で効果的だった環境構成を今年度も継続させることに加え、実際の子どもたちの遊びの様子や今後育みたい姿を想定し、新たな環境を加えるなど「子どもの主体性を育む遊び」が展開されるような環境を創意工夫する。

☆共通の「学び」を活かす（年間受講の研修を通して）

*今年度は年10回に「こどものとも社オンライン研修」を受講することとしている。例年では、様々な研修に職員がそれぞれ参加し、その学びを研修報告等で全体の学びにつながるよう配慮してきたが、今年度はオンライン研修の利点を活かし、全職員それぞれが自分で都合の良い時間を選び受講できるようにしたことで、「同じテーマの基に、同じ学び」ができるようにした。このことにより、研修で得た学びを職員皆で共有し、年齢に応じた「遊び」やそのために必要な「環境構成」の仕方をあらためて考えるとともに、活かせるようにしたい。

*学園研修「実践交流会」に参加する職員（3名）がいることにより、同じ建学の精神の基に保育を行っている姉妹園の保育実践を学び、それを報告することや自ら実践することにより、自園の「遊び」の幅や「環境構成」の仕方をあらためて考えるとともに、活かせるようにしたい。

☆「図書コーナー」のリニューアル

*当園10周年を記念して実施する事業として「図書コーナー」のリニューアルを行う。そのことにより、新しい環境が誕生するため、そのことをきっかけに新たな「遊び」や「環境構成」について考えたり挑戦する機会となるようにしたい。

【自己評価】 「B」

【評価内容】

- ・コロナ禍での保育が3年続いていたが、園生活や保育をする上では配慮しつつ、子どもの主体性を育む遊びを意識しながら創意工夫に努め、子どもたちの楽しさを共有していった。園庭にはコンクリート面に人工芝を敷き、安全面に配慮したり、木陰を想定した場所に記念樹を子どもたちと植樹し、環境を整えていった。滑りやすくなった築山の整備が必要になったため、今後の課題となった。室内の保育環境を整えていく為に、年齢に応じた質の良い玩具の種類を増やしてほしいという保育教諭からの要望もあるため、次年度に向けて検討していきたい。
- ・「オンライン研修」は全職員が同じ学びを共有することができ、保育に対する自分の都合の良い時間で学べた。全職員が同じ学びを共有することで同じ方向性で保育に取り組むことができた。今回の内容は乳児の環境構成が主だったが、幼児の発達につながる内容でもあり、大変参考になった。
- ・学園研修は姉妹園との交流により他園の保育実践を学び、共有することができた。他園の保育を取り入れたり、自分の保育を工夫したり、より良い保育へと考え実践することができ、参加者は良い経験となった。
- ・「図書コーナー」は、夏休み明けにリニューアルオープンし、快適なくつろげる人気の空間となった。子どもたちが落ち着いて絵本を読める場所となり、より絵本好きになってくれることを期待したい。たくさんの絵本を収納できるので、今後も良い絵本を増やしていけるよう努めていく。保護者の利用は少なかったが、大人用の本も増やしたり、保護者支援や子育て支援につなげていける場所にしていきたい。乳児クラスは段差がある為、活用するのは難しかったが、絵本の読み聞かせを落ち着いて行うことができた。夏は日差しが入り、暑かった日もあり、レースカーテンや冷房の必要性を感じたため、今後の課題をしたい。

2 円滑な保護者連携の推進

・昨年度は、園からの様々な発信方法の改善に取り組んだが、まだ不完全な面があったことから、より伝わりやすくなるための工夫を重ねることで、保護者連携を充実させたい。

◎保護者との連携を円滑にすることを通じて、園の保育や運営に対する理解を深めていきたい。

☆連携・発信方法のさらなる工夫

○コドモンの活用

・各種お知らせ類の読みやすさの工夫

昨年度は、ペーパーレス化の取組として園からのお便りをほぼコドモンでの配信に変更したが、紙での配布時と同じく作成したものを配信していた。年度末の保護者アンケートにより、便利になったが、もう少し読みやすくなったら…とのご意見をいただいた。そのため、作成方法を変更し、字の大きさやレイアウト等を工夫するよう努めている。お伝えしたいことをより伝わりやすくするために…を念頭に組みたい。

・各種申込やアンケートの活用

様々な申込やアンケートをコドモンで行えるようにしているが、申込の種類や内容によっては、配信時間の工夫をする・答えやすい項目の設定などが必要となるため、その都度しっかり考慮しながら進めていく。

○ブログの活用

- ・日常の保育の様子をお知らせするために、在園児限定ブログを昨年度からの取組として実施してきたが、年度末アンケートでパスワードが分かりにくく見るのが大変だったとの意見があり、今年度は覚えやすくわかりやすいパスワードに変更した。このことにより、ブログの閲覧回数が増え、保育や子どもの成長への理解がより深まるようにしたい。しかし、在園児限定としているのは「個人情報の保護」に関わることであるため、パスワードの管理は、十分に保留して行うことを徹底したい。
- ・園全体としてのブログは限定ではないため、当園保護者だけではなく不特定多数の方が閲覧できることから、定期的な更新とともに個人情報の保護に関しても、十分留意する。

○YouTube、ZOOM等の活用

- ・未だ続くコロナ禍で、来園してもらうのが難しい行事等は、YouTubeを活用（限定配信）し、保育の様子をお伝えできるようにする。
- ・ZOOMが必要な時を見極め、幅広く対応できるようにする。

☆日常保育への保護者参加の機会を増やす

コロナ禍の影響により、この2年間は行事や来園の機会が減ってしまったため、今年度は状況を見ながら感染対策を取りつつ、できるだけ来園の機会を増やし、子どもの成長を感じたり、園への理解をしていただけるようにする。

- ・日常保育の見学の再開
- ・行事のお手伝い依頼の復活
- ・保育参加の機会を増やす（マザーズ・ファザーズデイ等）

【自己評価】
「B」

【評価内容】

○コードモンの活用について

- ・昨年度の反省を活かし、保護者に読みやすく活用しやすいと納得していただけるようなものに少しは到達できたと感じている。しかし、保護者アンケートには配信量が多く文書を探すのに手間取るとの意見もあったが、資料室のカテゴリーを分けて探しやすくしていることを伝えていく。さらに見やすい読みやすい配信ができるよう次年度以降の課題としたい。

○ブログの活用について

- ・今年度も保護者に保育への理解をより深めていただけるよう、写真と文章による「クラス別ブログ」を週1回公開した。画像の見えにくい時があるとの保護者アンケートの回答があったため、写真の枚数や文字量等を考慮したり、画像が見えやすいよう作成していきたい。ブログを楽しみにしているという保護者の声もあり、今後も更新し「いちいの保育」を伝えていきたい。各担任は子どもたちの成長や保育実践をブログで見てもらうことによりスキルも高まり、効果を感じることができていった。今後も「個人情報の保護」に十分配慮していく。パスワードの設定がわかりやすくなったので見る回数が増えることを期待したい。

○YouTube、ZOOM等の活用について

- ・今年度は、出来る限りの感染対策のもと保護者に来園してもらう機会を設けることができたため、YouTube や ZOOM の活用はあまり必要にはならなかった。しかし、このようなツールを活用できることは、これからの強みになっていくと思うので技術の習得など研修を重ねていきたいと考えている。

○日常保育

- ・今年度は、保育見学、行事のお手伝い、保育参加等、実施することで園への理解や子どもたちの成長や保育を伝えることができ、保護者同士の交流も深まった。

3 職員の働き方改革の推進

・昨年度取り組んだ「業務改善」がより浸透し、働きやすさが増すよう、引き続き取組を進めた。一部の職員だけが考えるのではなく職員皆で取り組めるような職場環境になるよう努めたい。

☆業務改善

- ・PCを各担任（クラス）に1台ずつ配置し、連絡帳配信に必要な乳児クラスにはタブレットの台数を増やすことにより、効率よく業務を進められるようにする。
- ・勤務の偏りをなくし、職員全体で分担しながら必要な業務を計画的に推進する。

☆定期的な研修の継続

- 昨年度から取り組んでいる「働き方」や「チーム力アップ」「マネジメント」等を考える機会となる研修を継続し、意識改革を進める。
- ・「こどものとも社 オンライン研修」全職員対象
※オンラインのため、それぞれの職員が自ら時間を確保し受講する。研修会場へ移動する時間が短縮されるため、様々な働き方の職員の状況に対応することができることと、職員皆が同じ研修を受講することにより同じ学びをすることができることも、「チーム力アップ」に大きな利点となるのではないかと考えている。
- ・「絵本ワーク」正職員中心
※週1回、20分のワーク。できるだけ多くの職員が参加できるよう、実施曜日や時間等検討しながら進めていく。
- ・「管理職研修」「チームマネジメント研修」園長、副園長、主任、リーダー的立場の職員が参加
※月1回、1～2時間

☆職員一人ひとりが「得意」を活かす取組

- 例年年度当初に職員一人ひとりが作成している「自己目標カード」に、今年度は「自分の得意なこと」「それをどのように活かしたいか」を記入することとした。一人ひとりが無理のない範囲で、自分の得意なことを園の職員として活かすことを意識して働くことにより、自主的な園運営への参加ができるのではないかと考えている。

【自己評価】
「B」

【評価内容】

- ☆業務の改善として、PCを各クラスに1台ずつ用意できたことで仕事の効率化となった。乳児クラスの場所はWi-Fiがつながりづらい時もあるが、タブレットの台数が増えたことで、連絡帳の記入や配信がスムーズに行われた。
- ・勤務の偏りを分担し計画的に進めることができた。担任業務や行事等の役割分担に余裕をもてるよう、事務時間も多く作っていききたい。
- ☆全職員対象の研修がオンライン研修で各自の自由な時間で学べたことは利点だった。みんなで同じ場所、時間の設定をして、研修する機会もあったとよかった。
- ・絵本ワークは正職員を集め、時間をうまく作って行うことができた。保育の内容だけでなく、顧客満足度を高める学びにもなり視野が広がるので続けていきたい。
- ・月1回の「管理職」「チームマネジメント」研修は同じ立場を理解し合いながら学ぶことができ効果的だった。
- ☆職員一人ひとりが「得意」なことを活かす目標を立て、意識して働くことはできたが、時間に余裕がなく達成できなかった人もいた。それぞれの「得意」を各職員が互いに知っていることで高め合い、共有し合えたかもしれない。園運営に貢献できる喜びを感じて働けるよう、今後も一人ひとりの「得意」を理解し活かしていきたい。

3 今後取り組むべき課題

課 題	課題設定の理由
「遊び」の充実のための保育環境整備や質の良い玩具の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の終息により、建学の精神に基づいた子どもの主体性を育む「遊び」への取組が制限されず、積極的に実践できることを想定していく。あらためて、各年齢の成長段階に必要な「遊び」、遊びを創り出す「環境」、必要な「玩具」について考えたい。
円滑な保護者連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も園からの様々な発信方法を改善しながら取り組んだが、まだ不完全な面があったことから、より伝わりやすくなるための工夫を重ね、保護者との連携を充実させたい。
職員の働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度取り組んだ「業務改善」が浸透しつつあるため、さらに働きやすさが増すように引き続き取組を進めたい。職員皆が意見を出しやすくして、職場環境の見直しが随時できるよう努めていきたい。